



映画観賞会『わたしは、ダニエル・ブレイク』

# 貧困・格差を知るために

♡物語 ★ノンフィクション ◎映画紹介、パンフレット



2022.1.8

ブックリストの本  
は全てあります  
貸出OK~

★	書名	著者名	出版社	出版年	請求記号
★	『それでも映画は「格差」を描く』	町山智浩	集英社インターナショナル	2021	778-7
労働者から人権を奪い、生活限界まで搾取する傾向はコロナで拍車がかかっている。「ジョーカー」「万引き家族」など、世界の映画作家たちが現代社会を覆う「格差と貧困」を描いた作品を取り上げ、徹底解剖する。ダニエル・ブレイクはp198~。					
♡	『万引き家族』	是枝裕和	宝島社	2018	913-J
高層マンションの谷間に取り残された平屋に住む、夫婦と息子、妹。彼らの目当ては祖母の年金。足りない生活品は万引きで賄う。家族は「犯罪」でしかつなげなかった……。2018年6月公開映画を監督自らが書き下ろした物語。					
★	『14歳からわかる生活保護 14歳の世渡り術シリーズ』	雨宮処凛	河出書房新社	2012	369-7
もし仕事がなく収入が途絶えたら？ 病気が怪我で働けない時は？ 貯金や年金もなくて、家族、友人、頼れる人が誰もいなかったら？ あなたはどうするだろうか。					
★	『時給はいつも最低賃金、これって私のせいですか？ 国会議員に聞いてみた。』	和田静香	左右社	2021	312-7
息が詰まるほど不安で苦しい生活が続くのは「私のせい」？ 私の不安は日本の不安！ 国会議員・小川淳也に、相撲・音楽ライターの和田静香が、生きづらさの原因を直接ぶつけた建前なしの政治問答。政治問答ブックリスト付き。					
◎	『映画パンフレット 家族を想うとき Sorry We Missed You』	アメリカン・ピクチャー	ロングライド配給	2019	014-カ
「わたしはダニエル・ブレイク」のケン・ローチ監督の最新作。2019年公開映画のパンフレット。Amazonなど大企業を支える配送業者の雇用問題も扱い、今を考えさせられる。					
◎	『映画パンフレット パブリック 図書館の奇跡』	ロングライド配給	ロングライド配給	2018	014-ハ
大寒波で行き場を失ったホームレスが公共図書館を避難場所にした。そのとき図書館長の決心とは？ 公共や福祉を問う。2018年公開映画のパンフレット。					
★	『格差と分断の社会地図』	石井光太	日本実業出版社	2021	361.8-イ
コロナ禍が浮き彫りにした社会の歪み。この国でいま起きている問題を知っていますか？ ノンフィクション作家が、貧困と格差の連鎖が引き起こす「分断」をめぐる7つのテーマについて、改善のための知恵と道筋を示します。					
★	『<女子>革命 人生100年時代を生きぬくために』	萱野稔人	東京書籍	2018	367-カ
結婚はどうする？ 子どもは？ 仕事は何歳まで？ 老後のお金は？ 既存のモデルが通用しない人生100年時代とは女子にとってどんな時代なのか。津田塾大学の学生が身に迫る危機として調査、処方箋を提起する。					
★	『「ほとんどない」ことにされている側から見た社会の話を。』	小川たまか	タパックス	2018	367-カ
2016年2月から2018年5月に起きた、性犯罪やそれにまつわる世論、性犯罪刑法改正、ジェンダー炎上案件などを取り上げ、発信してきた記録。ブログ『note』掲載に加筆し単行本化。					
★	『生きるためのフェミニズム パンとバラと反資本主義』	堅田香緒里	タパックス	2021	367-カ
女性間の階層化が促され、分断させられていく社会。パンデミック下であらわになった、あらゆる格差、貧困、分断の問題を、フェミニズムの視点から読み解き、日常的で具体的な抵抗の方法を探る。『仕事文脈』ほか掲載を書籍化。					
★	『どんとこい、貧困！ よりみちパン！セ 46』	湯浅誠	理論社	2009	368-1
見えないけれど、たしかに存在する”貧困”に立ち向かえる社会をつくるにはどうすればいいのだろう。					

♡	『レモネードを作ろう』	ヴァージニア・ア・ユウ・フー・ウルフ	徳間書店	1999	933.6-9
「福祉なんて、まっぴらだよ！」。2人の子どもを育てるジョリーは、17歳のシングルマザー。主人公、14歳のラヴォーンは貧しい町を出て大学に行くため、ジョリーの部屋でベビーシッターとして働き始める。					
♡	『野原できみとピクニック』	濱野京子	偕成社	2021	913-ハ
裕福な家に生まれ進学校に通う優弥と、底辺校に通いつつアルバイトにいそしむ希星。優弥はある日、からまれていたところを希星に助けられる。二人は惹かれあっていくが……。格差社会のラブストーリー。					
★	『刑務所しか居場所がない人たち 学校では教えてくれない、障害と犯罪の話』	山本諤司	大月書店	2018	326-ヤ
刑務所は、世間から排除され続けた障害者が最後に行きつく「福祉施設」だった。触法障害者や出所者の支援に奔走する著者が、福祉と司法のすきまに落ちる人々の実態を鋭く、優しく説き起す。					
★	『子どもたちの階級闘争 ブロークン・プリテンの無料託児所から』	ブレイディみかこ	みすず書房	2017	369-7
地べたのポリティクスとは生きることであり、暮らすことだ。在英20年余の保育士ライターが、移民問題をはじめ、英国とEU圏が抱える重層的な課題を背景に、保育の現場から格差と分断の情景を描き出す。					
★	『先生、貧困ってなんですか？ 日本の貧困問題レクチャーブック』	自立生活サポートセンター・もやい	合同出版	2017	368-ヤ
ホームレス、生活保護、高齢者や子どもの貧困……。日本の貧困について12の切り口から豊富なデータでわかりやすく解説する。コピーして使えるワークつき。学校の先生、NGO・NPOスタッフ、自治体関係者必携テキストでもある。					
★	『社会格差はどこから？』	ブランテルグループ	あかね書房	2019	361.8-7
どうしてお金を持っている人と貧乏な人がいるのかな？ 「社会格差」について考えよう。子どもへの問いを通して社会のしくみを解説する、スペイン発のピクチャーブック。社会学者・橋本健二のオリジナルコラムも収録。					
◎	『ブルーラス ドキュメンタリーが好き。』	マガジンハウス	マガジンハウス	2021	778.2-7
ドキュメンタリー特集。最新もチェックしたい。”映画も、配信も、今観なくていつ観る！？”					
◎	『ナトセンおすすめYA映画館』	名取弘文	子どもの未来社	2018	778.2-ナ
笑ったり泣いたりさせてくれる映画は、世界で起きていることや文化も教えてくれる。年間100本近く映画を観る著者が、子どもに観せたい映画100本を選び、それぞれのあらすじを紹介するとともに、内容について解説する。					
★	『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー The Real British Secondary School Days』	ブレイディみかこ	新潮社	2019	376-7
優等生の「ぼく」が通い始めたのは、人種も貧富もごちゃまぜの「元・底辺中学校」。世界の縮図のような日常を、思春期真っ只中の「ぼく」と著者である母は、ともに考え悩み乗り越える。					
★	『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー 2 The Real British Secondary School Days』	ブレイディみかこ	新潮社	2021	376-7-2
授業でのスタートアップ実習、助け合ってきた隣人との別れ、そして母の国での祖父母との旅。中学生の「ぼく」は“事件”続きの暮らしの中で、大人へのらせん階段を昇っていく。親子の成長物語、完結。					
★	『裸足で逃げる 沖縄の夜の街の少女たち』	上間陽子	太田出版	2017	367-カ
沖縄の風俗業界で働く女性たちの調査の記録。家族や恋人や知らない男たちから暴力を受けて育った少女たちが、そこから逃げて、自分の居場所をつくりあげるまでを綴る。『atプラス』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。					

